

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black



60

65

70

75



小丸山

まき樹葉

春日新活

星山
けく

五通ん

房多孫
魚

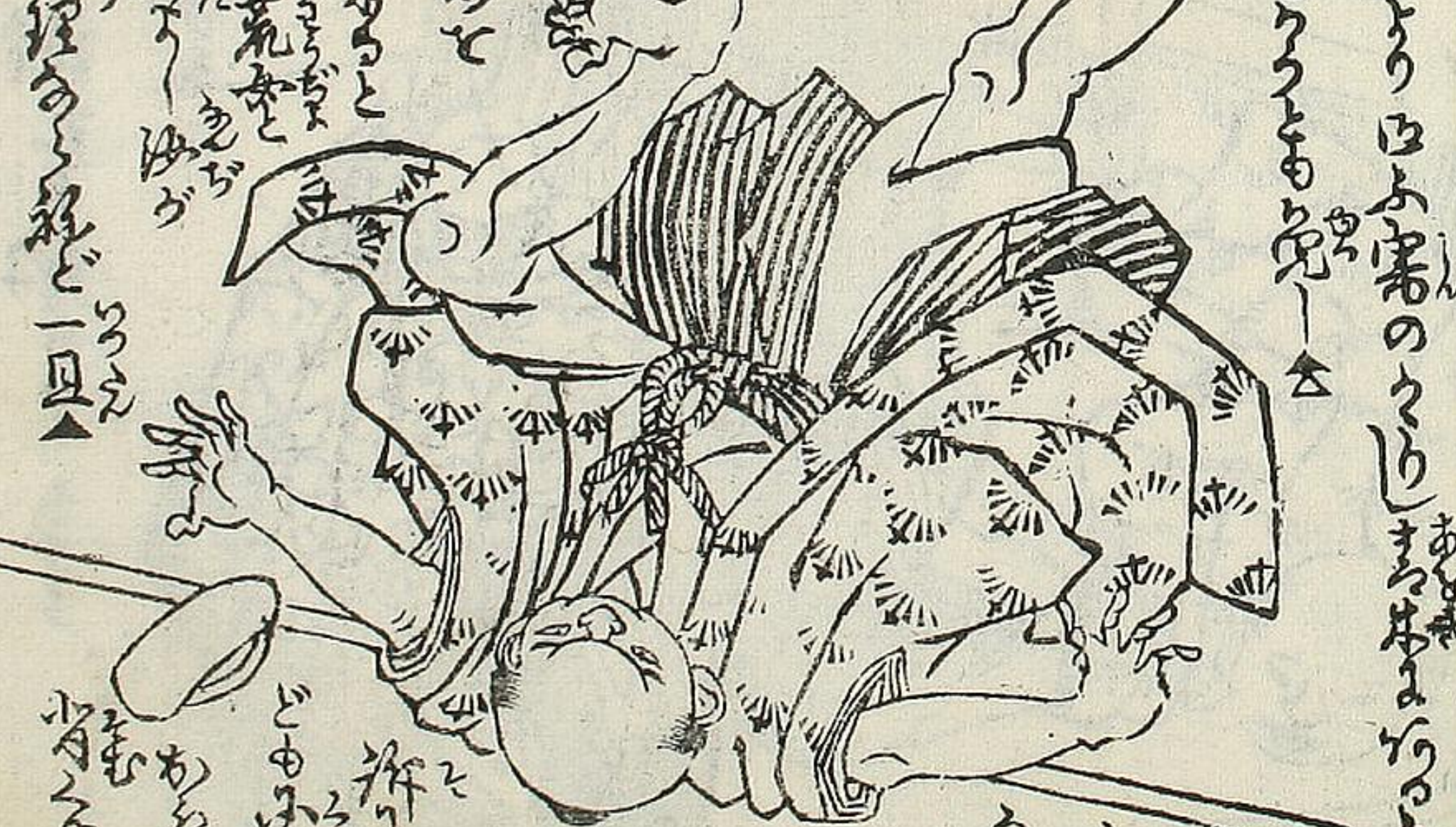
下の

巻

延まの

巻棒

上... (vertical text columns)
 海橋よのお...
 入...
 ...
 ...
 ...
 ...



... (text below the illustration)
 ...
 ...
 ...
 ...

ふき 心でなごらん

と獄士の故ふる

あしき節文を

ききとをばさふ

事像と蘇え

や一蒸者同あ

速い書はば

よま入るゝあま

も新後ごとの

のふしあま

向はつた方の

君子と名あ

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻



あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

あまれあ一巻

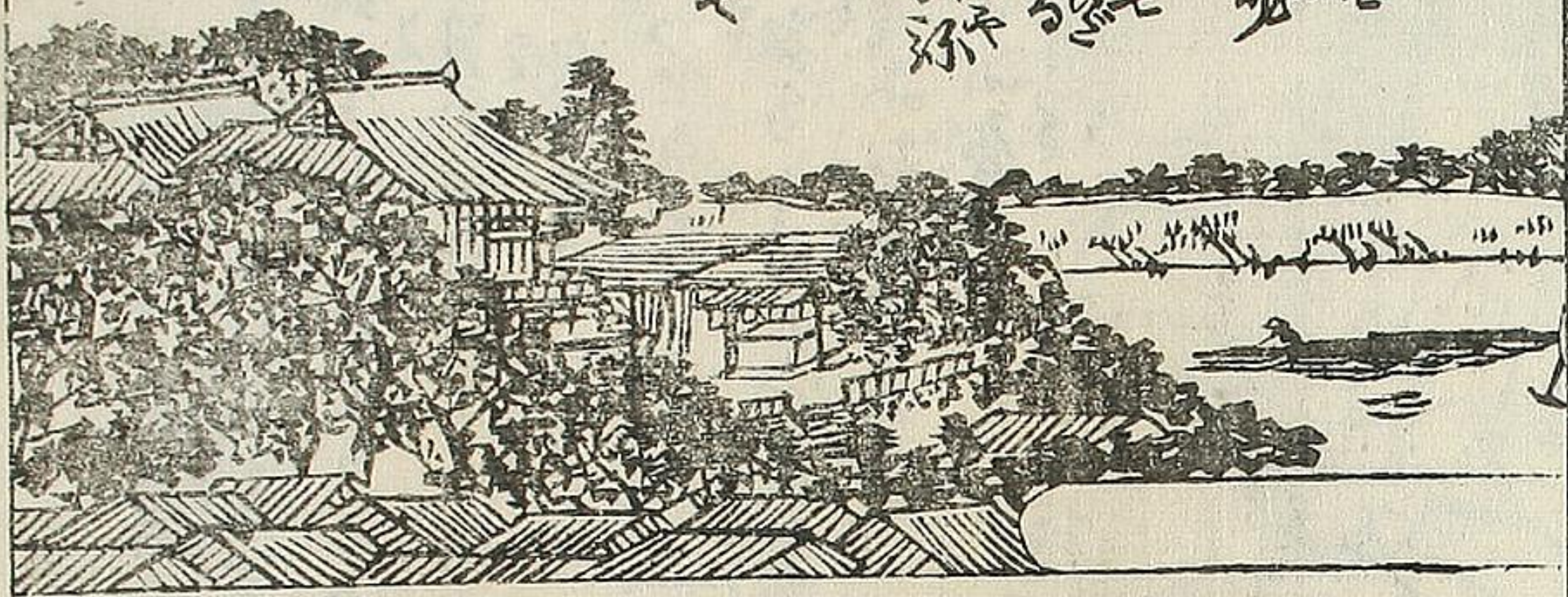
あまれあ一巻



つぎ
 一介老き
 とくく六日は
 伝心あるま
 其後とふ
 深か獲る

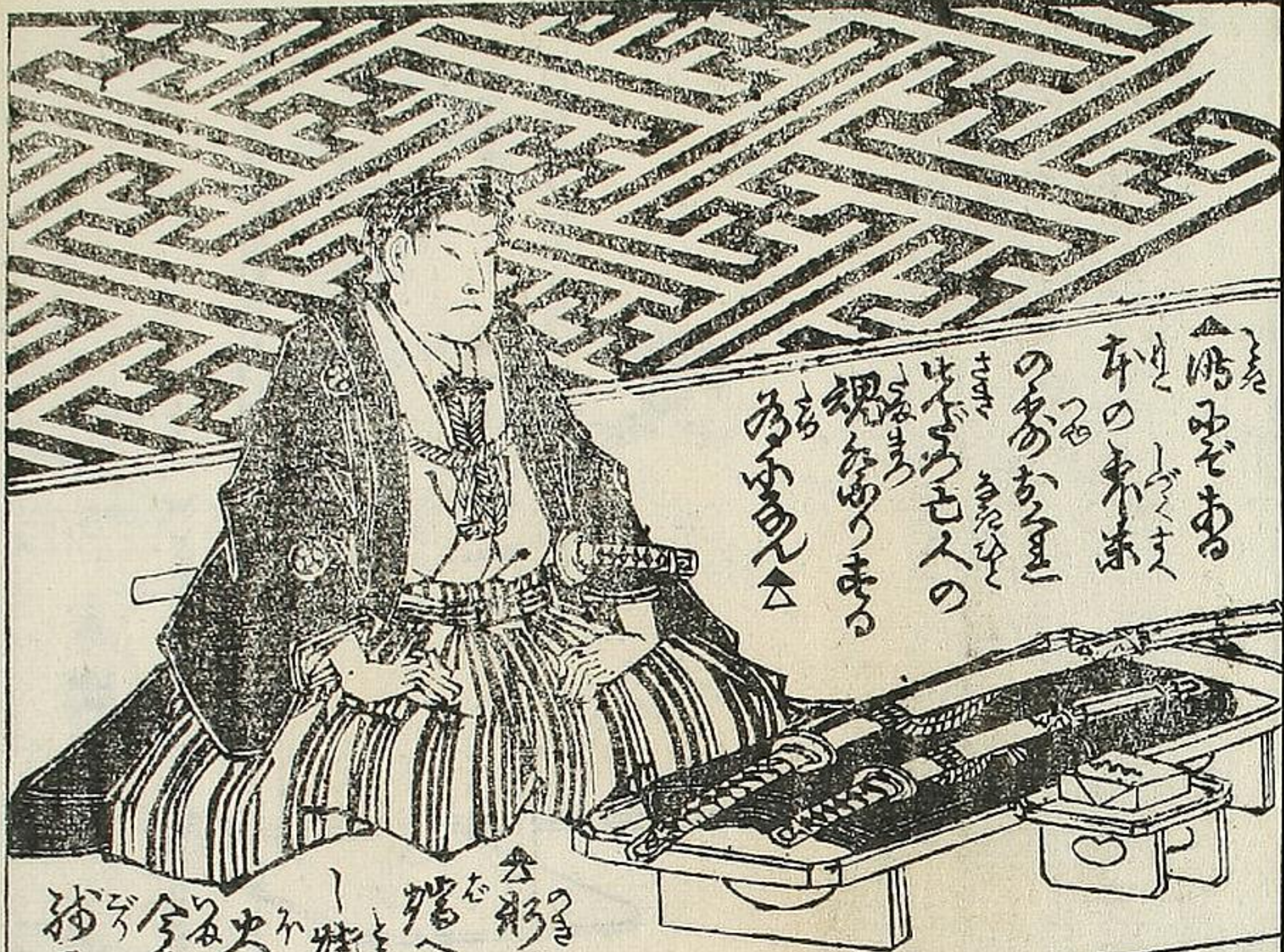
大厄
 救ふ
 救ふ
 救ふ

つぎ
 一介老き
 とくく六日は
 伝心あるま
 其後とふ
 深か獲る



つぎ
 一介老き
 とくく六日は
 伝心あるま
 其後とふ
 深か獲る

つぎにゆゑに人の中へ入る
 のころあつた全船を後天小舟と
 獨りつゝしる皇族のあつてもよ
 けりしは且つ負殿考ふの故
 皇族の船を更しくしる
 大船を板つせりつゝしる
 利便あり板もそのとを
 のあつてもよふ船考ふとありて
 まはる今
 孟素
 船の



舟考ふ
 舟の末末
 のあつてもよ
 皇族の船を更しくしる
 大船を板つせりつゝしる

舟考ふ
 舟の末末
 のあつてもよ
 皇族の船を更しくしる
 大船を板つせりつゝしる

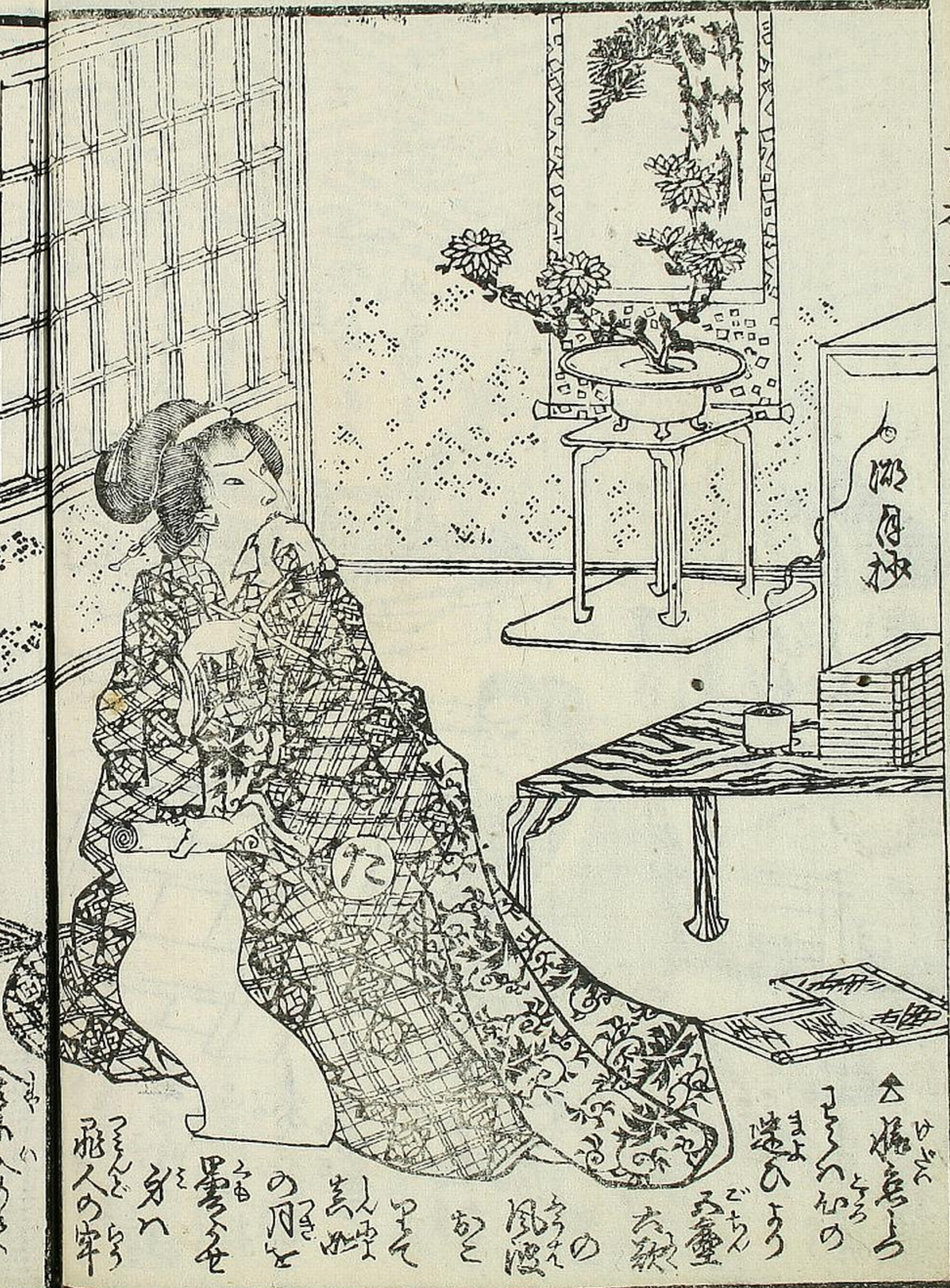


舟考ふ
 舟の末末
 のあつてもよ
 皇族の船を更しくしる
 大船を板つせりつゝしる

舟考ふ
 舟の末末
 のあつてもよ
 皇族の船を更しくしる
 大船を板つせりつゝしる



舟考ふ
 舟の末末
 のあつてもよ
 皇族の船を更しくしる
 大船を板つせりつゝしる



△撫子
まよひの
まよひの

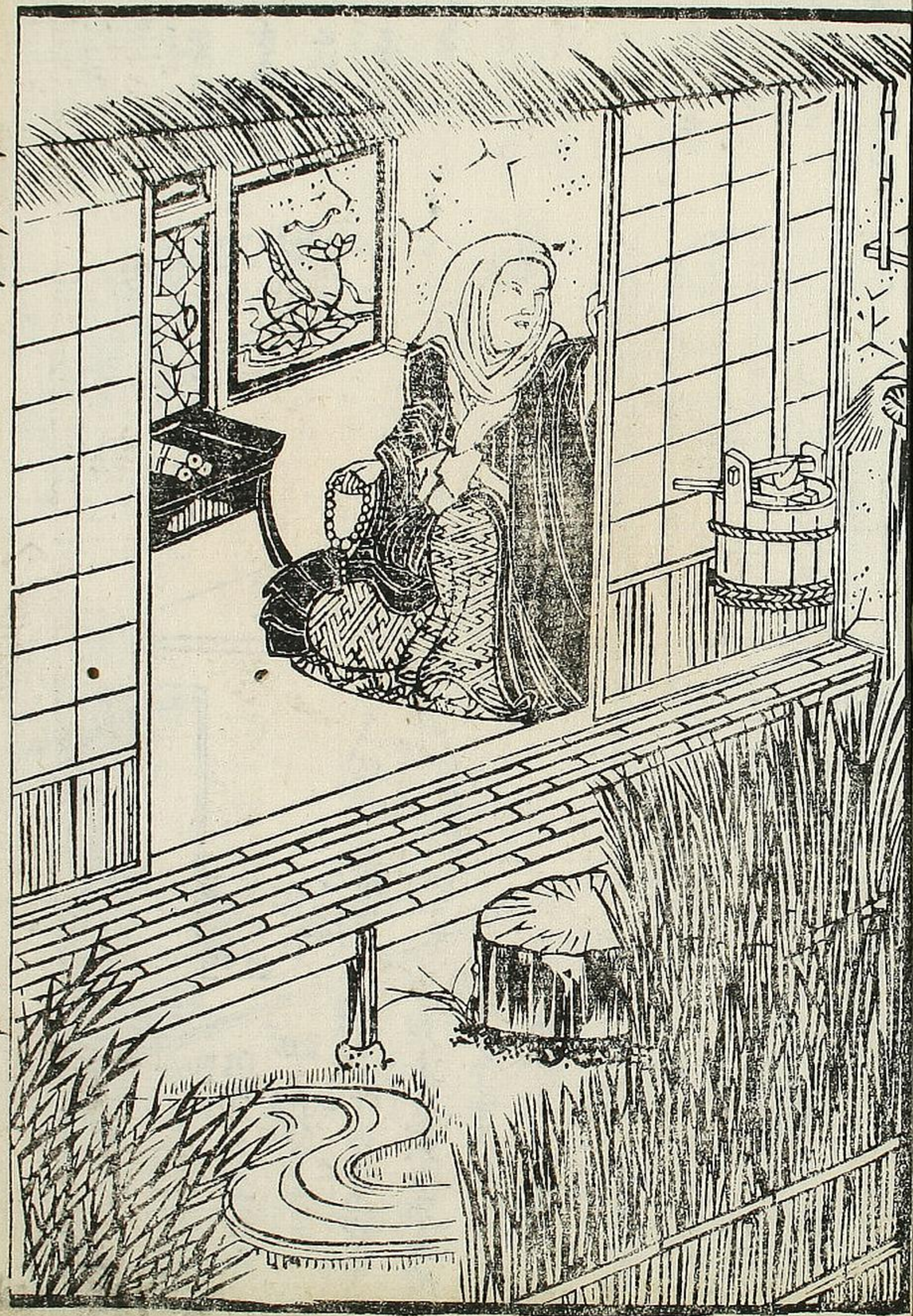
大紫の
おと
風波
の月を
墨を
身に
飛人の字

ふき 欠けられ
どもおろへ
森の中をささぐ
竹火の元へ
向ひて
つるが
つるが
むま
ちんちん
あたののちんちん
たべふはたて

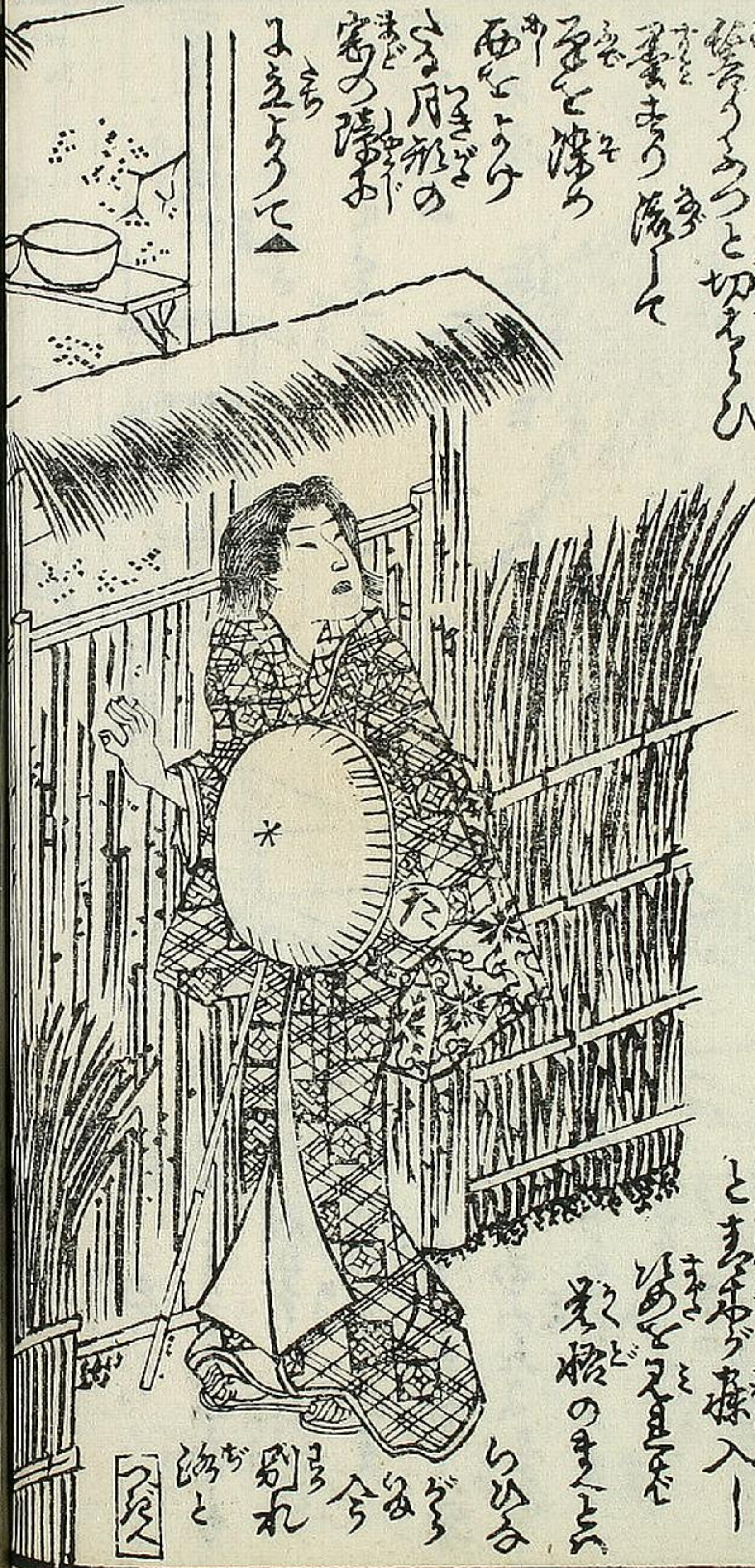
△まいつ
のま
ま
あま
の香
味の

△海代の
まびら
年のあ
わむの
直
神の
あ
り又
わ

清才五

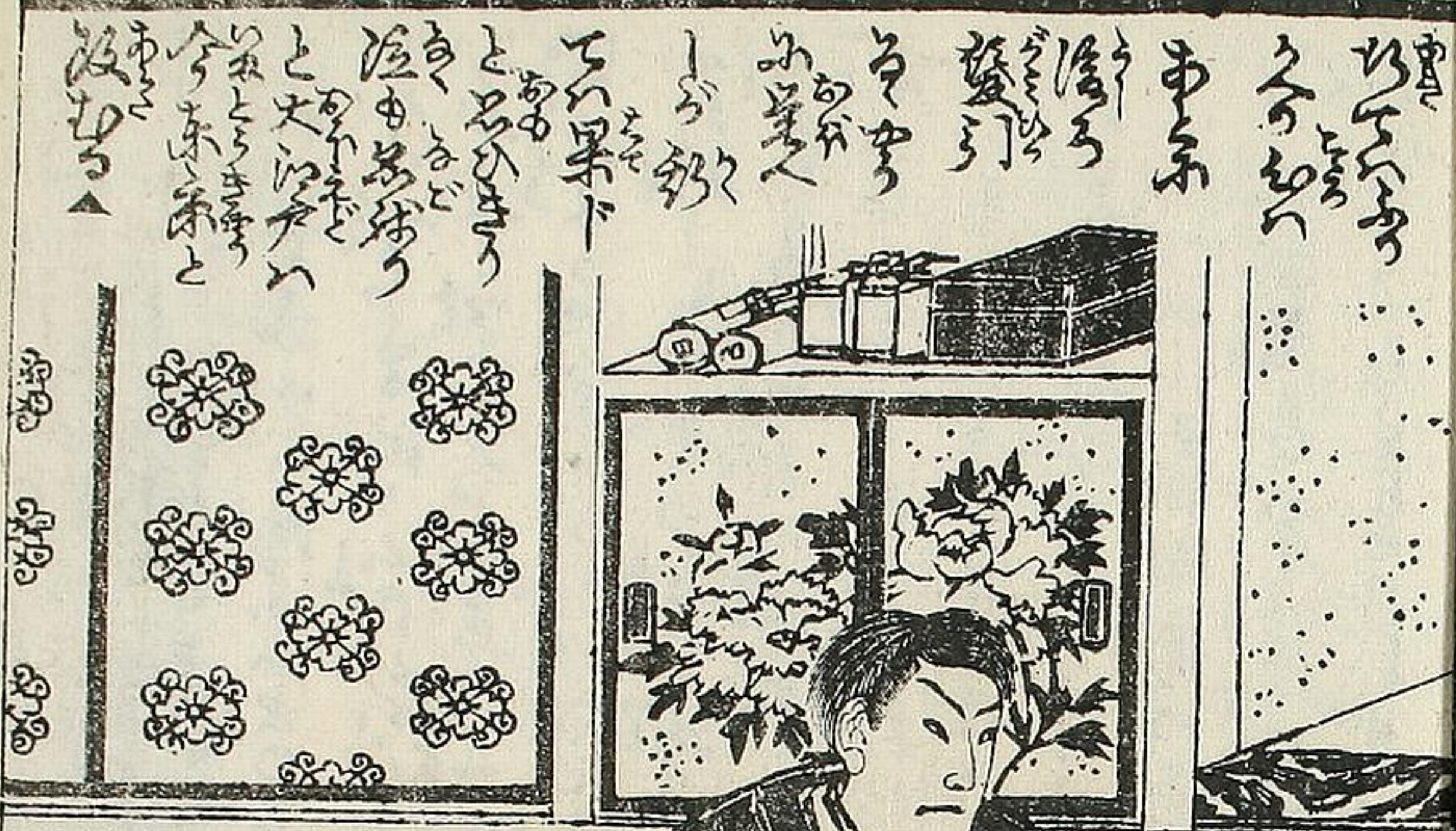
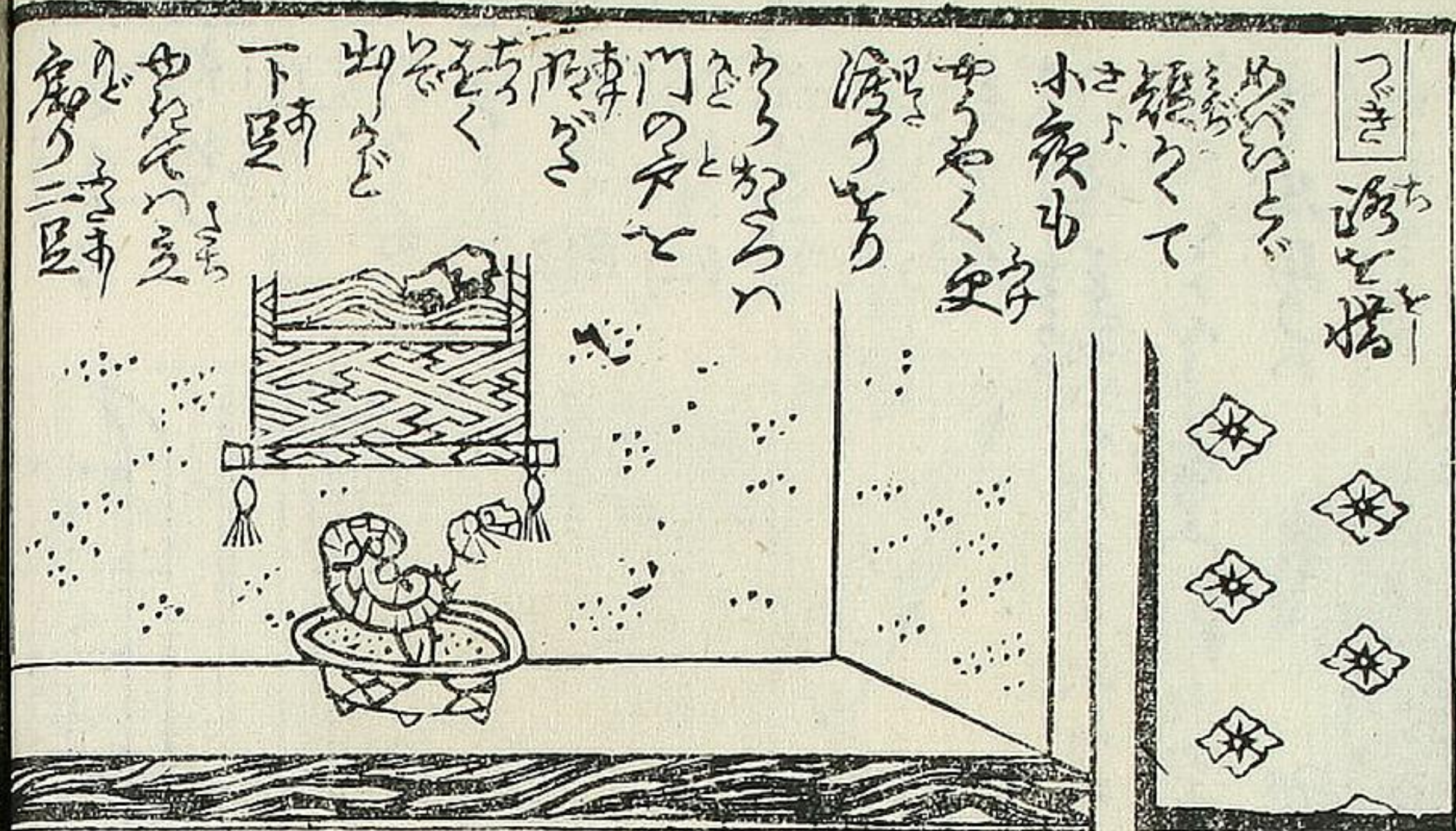


まさか ありんかの 見ようとして
 昔を 懐かしく 思ひ出す 涙の 珠が つか
 ちと 降り さらけ 出す 雨の 音も 遠く
 響き 渡る 静寂の 空に 雲が 流れて
 いく 夕陽の 影が 長くなり 木漏れ
 日の 光が 柔らかく 照らす 庭の 草花
 も ささやき 咲き 誇る

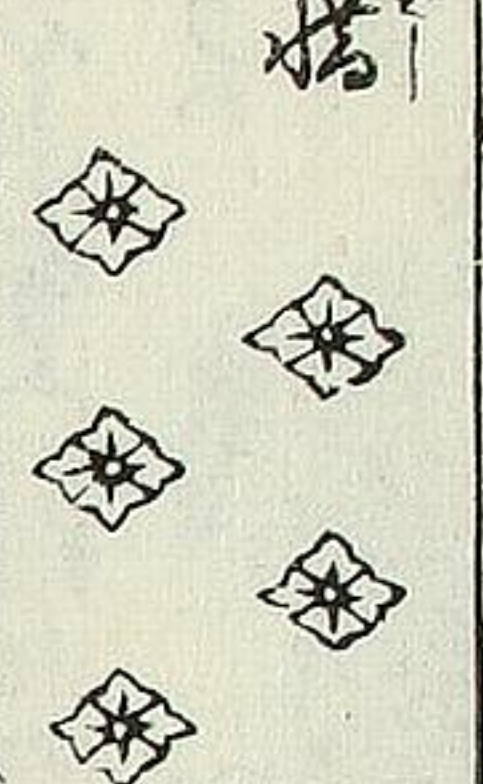
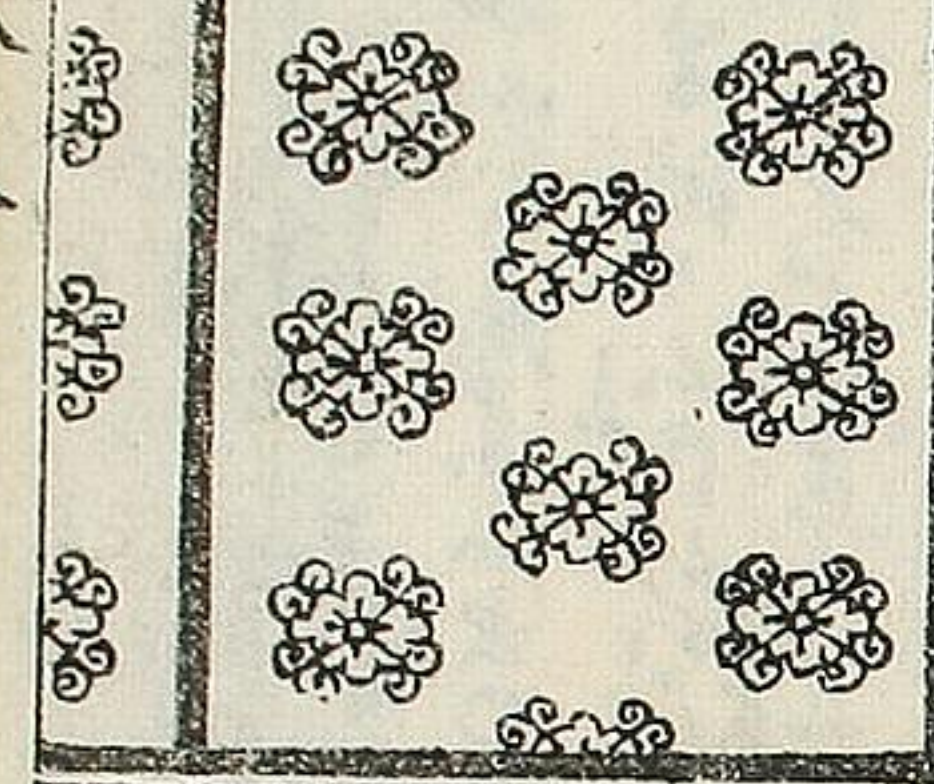


一匹の 狐の 爪を 採り 入る 狐の 爪と
 かき 出た 爪の 色を 見ると 赤い 香を する
 狐が 驚く といふ 紙に 入る と 香と する
 狐の 爪の 入る 香と する

今 何れ 今 何れ
 まさか ありんかの 見ようとして
 昔を 懐かしく 思ひ出す 涙の 珠が つか



つぎ 湯を浴
 さし 湯を浴
 さし 湯を浴
 さし 湯を浴



△曲り心ゆゑふしん
 かろがゆも改めり
 不ろくをそよ川や
 張鶴の
 長木終て
 衣櫛の

△むれり
 坂下を
 着波か
 紫衣
 さびく
 光州
 道舎
 こまろ
 初七
 むらさ
 光州
 大子
 ろ尼法

書肆

日本のことばを元もどして考へて... 明治十一年十二月廿日御届

算法并用文證書書類

草及紙類一代記讀本類

明治太平記 村井静馬著 伏見より熊本まで十五編

初編の伏見戦争と始め... 野東慶山焼討

書肆問屋 日本橋通二丁目四番地 小林鉄次郎板元

